

勇気を出して伝えよう！

「カタリ場」は、定時制が3年前から推進している生徒のコミュニケーション能力の育成と進路の確立を目標に取り組んできたキャリア教育の内容として、全校生徒を対象に、小樽潮陵高校創立110周年記念事業の一環で開催されました。

NPO法人CANが推進するカタリ場は、大学生のボランティアが高校生と車座になって自分の体験を率直に語り、真剣に向き合い身近な年長者として接する中で、高校生一人一人に将来について考えるきっかけ作りを目指す「動機付け教育プログラム」です。開催には、学生が中心となり1ヵ月かけて準備します。事前に生徒にアンケートを実施し、先生方にヒヤリングを行った上で問題点や課題を把握しテーマを決めて臨みます。

潮陵高校体育館で行われた「カタリ場」は約30人の定時制生徒と、北大や北星学園大学など24人の大学生が参加。最初に1～3人のグループに分かれて、雑談を通して仲良くなりながら少しずつ話題を生徒の「興味あること」、「不安なこと」、「将来について」など本質的な部分に触れる内容にシフトしていきます。そして、学生が高校生の考え方を褒めて受け入れる姿勢を示しながら生徒自身が会話を通して考えを整理するきっかけを作ります。次に生徒にロールモデルを提示する「先輩の話」に移り、5人の学生が体験談を語ってくれました。体験の内容は様々ですが、主に失敗談や高校生の時の後悔などをふまえ、自分自身の姿をさらけ出しながら、学んだことや大切にしたいことを生徒に話します。先輩の話は途中2回挟みながら、学生が一つの人生像を提供することで、生徒はそれに共感し、感動しあるいは新しい視野を見だし、さらにその中から生徒が自分自身について考えるきっかけを生み出します。

児童養護施設で過ごした体験を紹介した学生は「大学で福祉の勉強をしたいと考えていたが、お金がない生活で、高校時代は必死にアルバイトして自力で学費を稼いだ。明確な目標と夢があったので辛いことも乗り越え頑張れた。夢を見つけることは大変だけれど、小さくてもいいから一歩踏み出し、目標を持って生活してほしい」と語った。

また、自分が信じられずに、大嫌いと考えていた頃の自分を紹介をした学生は「持病の発作に悩まされ、不登校に。自分は駄目な人間と決めつけたが、人より何か長けている自分になりたいと猛勉強し、東京の大学に合格。しかし不眠症に悩まされ大学を中退。引きこもり状態になったが、母親と交換ノートを続けるうちに再挑戦しようとの決意がわき再び大学へ。辛いのは自分だけではない。周りのみんなも辛い思いをしている。その辛さから逃げないで向き合うことが大切」と呼びかけた。

この後、生徒と学生はグループになりながら、体験談を聞いての感想や自分もできると考えたことなど話し合いながら、将来に向けて今日からできることは何か、勇気ある一歩を踏み出す具体的な内容を約束するなど予定の2時間を大幅に超えて約3時間のカタリ場は終了しました。

《 生徒 の 声 》

夢を持つこ

との大切さにそうだと
思いました。勇気のいる
話しに、自分も何か伝え
たいと思った。

仲間の大切さ、家族の大

切さを感じました。共感
することが沢山あり、ま
た最後まで話を聞いてく
れ楽しかったです。

学生の人

達と楽しく話しがで
きたのと、共感でき
ました。このカタリ
場をやって良かった
と凄く思いました。

学生が温

かく迎えてくれ、友
達のような接し方で嬉
しい行事でした。もう
一度行いたい。

(1～3人のグループづくり)

(学生が自らの経験を紙芝居風に語ります)(自分の考えをまとめます)

